

福島県の東日本大震災被災地視察を終えて

一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会
猪熊 明

2013年8月29、30日に、全国土木施工管理技士会連合会主催で小林会長を団長とし30名で、福島県内の東日本震災被災地視察を実施しました。

まず初日に、福島県相馬港、ソーラー・アグリパーク、南相馬市原町小高地区、2日目に福島県農業総合センター、安積疎水を視察しました。

1日目の相馬港では復旧工事が盛んに行われていました。特にケーソン工事は、作業船、クレーンなど大型の機械を使った工事で機械化の威力を目の当たりにしました。ソーラー・アグリパークは太陽光発電

とその電力を使った植物工場でまだ実験段階ですが、今後の農業の一つの道のように感じました。午後訪れた南相馬市はまだ夜間の居住制限があり今後の復興が待たれます。2日目は、県の農業総合センターでの除染作業の視察で、除染水処理に工夫が見られました。これは、粘着性のあるポリイオン水を用いて、高圧洗浄し吸引装置で除染水を同時回収し上澄み水とスライムに分離する工法です。

今回の視察を通じて感じたのは、よく言われることではありますが、放射線対策の難しさでありました。最終処分地が未定の



視察団

ため除染作業で出たものを仮置きしかできず、その仮置きのためにさらに仮・仮置きするという状況です。ホテルから早朝の散歩をした時の人通りの少なさも印象に残っ

ています。情報公開の在り方や合意形成の進め方など見直しが必要なところは見直して検討を重ね、福島を支援していく必要を再認識しました。



ケーソン台船とクレーン（相馬港）



農業総合センター（以下すべてセンター内）



路面洗浄装置



放射性汚染計測装置



仮置き



表土のはぎとり（5cm）